

苗場山麓ジオパーク学術研究実施報告書（鑑文）

平成29年1月31日

団体名（所属） 菅沼を考える会

代表者名（氏名） 涌井 泰二

1 研究の名称

廃村から再び森へ Part 2 ～平成28年度 菅沼自然環境調査報告(2年次)～

2 研究のテーマ

約40年前に廃村になった旧菅沼集落において、自然の遷移の中で、現在どのような自然環境になっているか動植物や水文環境から調査し、その希少性と多様性を明らかにすることで、菅沼地域の価値を明らかにしようとした。

3 調査・研究等の日程と概要（調査区域や地点・調査方法など）

※これまでの実績と今後の予定

日程	主な調査・研究等の概要
平成28年4月	○平成27年度の調査結果と課題をもとに、春季から初冬まで菅沼集落跡周辺において、現地調査および無人航空機による画像の蓄積により、以下の調査を行った。
～	1 植生調査(水田跡に進入している樹木の樹種や位置の調査と記録等)
平成29年1月	2 集落跡内の水路の流量、水質等の水文環境と生き物(チャイロカワモズク)との関係
	3 生き物等の調査(鳥類やトンボ類を中心とした調査等)

4 調査・研究結果（概要）

本年度の調査によって、菅沼地域の自然環境の特異性と多様性が改めて明らかになった。集落跡中心部の水田跡では、現在も樹木の進入を阻む湿地となっており、シロヤナギなど、限られた樹木が進入しているのみである。集落奥の湿地では、貴重なトキソウの群落やハッチョウトンボの生息を確認した。

これまでに菅沼地域で確認できた野鳥は、49種類。またトンボ類は25種類に上る。

集落跡内の水路の流量について、6月から三角堰を設置して記録を蓄積した。夏季から秋季にかけての流量の変化をおおよそ把握することができた。基底流量は0.5 m³/minほどであった。水質的な水域環境としては、これまでのデータの蓄積から菅沼地域特有の水質傾向が明らかになってきた。導電率（EC）が他と比べ比較的高い水域であり、水の硬度値も比較的高い。

これらの調査結果と併せて、本年度はチャイロカワモズクを定量的に記録した。その結果からチャイロカワモズクの生育には水質とともに、岸の草刈り等による日照の関係なども分かってきた。

こうした菅沼集落跡の環境が、自然の遷移の過程に置かれ、閉じられた生態系としてコンパクトな範囲の中で、ほとんど手つかずのまま残されていることは、価値あることである。自然の遷移を目の当たりに観察できる場所として、その価値は計り知れない。今後、津南町の大切な宝としてこの菅沼地域の利活用を考えていくことが大きな課題である。

※調査・研究結果がわかる資料を添付してください。